

菊陽人 りさーち



はしもと こうせい
橋本 幸斉さん (9歳)
[中代]

- 趣味 サッカー
- 将来の夢 サッカー選手になること
- 自分を一言で表すと マイペース
- 自慢 元気なこと

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される方は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している方に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらよりご連絡させていただきます。



にしもと まいか
西本 舞果さん (10歳)
[中代]

- 趣味 家事
- 将来の夢 自分の意見を発表する仕事
- 自慢 かわいい2歳の弟がいること
- 今一番やりたいこと プールに入りたい

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.6】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

「辛さを味わった」体験は、周りの人やその生活を見つめる見方を深めていることが良く分かります。人は同じ立場に立つことはできなくても、同じような体験を通して相手のおかれている状況を理解したり、共有して繋がりをつくっていくのでしょ。それはお父さんやその仕事をみつめる目にも表れています。

わかりあうために大切なこと

武蔵ヶ丘中学校3年 原口 未帆

私がまだアメリカに住んでいた時、友だちと一緒に買い物に行きました。そのとき、レジに耳の聴こえない人が並んでいました。店員さんが何か伝えようとしますが、通じません。私はアメリカに引っ越したばかりのとき、言葉が通じない辛さを味わいました。だから、店員さんと耳が聴こえない人の気持ちが変わります。でも、私はその場で何もすることが出来ませんでした。手話に興味を持ったのはその時で、「日本語と英語では、手話は違うのかな？」と疑問にも思いました。

日本に帰国した今、先日、図書室にある手話の本に「ドラえもん好き！」や「ウルトラマンは素敵！」と手話で伝える方法が載っていて、手話への興味が一気に増えました。
アメリカに引っ越して間もない頃、私は英語を全く話すことができませんでした。現地の学校へ通い始めると、クラスの人々にこころを話しかけてくれました。中には、日本語で挨拶してくれた人もいました。「ニチワ」と変なイントネーションだったけど、すごく嬉しかったので覚えていました。ことが通じない私にも、優しく接してくれたので、英語を勉強したいという気持ちになりました。その時と同じように、友だちと共に手話も覚えたいと思っています。
帰国して、私は人権について疑問に思ったことがあります。日本は髪の色も目の色も、全く同じとは言えませんが、だいたい似ています。それに対し、アメリカには

色々な国から来た人がいて、髪の毛も肌の色も違って個性でした。でも、アメリカでは、いじめが余りありませんでした。全く無いというわけではないけれど、日本と比べると少ないんじゃないかと私は思います。日本では見た目に大きな違いは比較にならないのに、どうしていじめが多いのか不思議です。私は、どんなに見た目に違いがあっても、お互いを分かり合おうことが出来たら、少しはいじめが減るのではないかなと思います。



▲笑顔がいっぱい!

お父さんのこと

菊陽中部小3年 うごう さや

お父さんのことは、だいくさんです。このあいだ、お父さんが帰って来たから、うでが赤くなってたから、「うで、どうしたの。」と聞いたら、「うでが赤かった。」と言いました。
お父さんがしごとをしているのを見ました。あせをいっぱいかいていました。いっぱいどうぶがりました。一人でしごとをしていたから大へんだなあと思いました。お父さんは、ぼつしにえんぴつをさしていました。ゆかを、金づちでたいてはっていました。おもいどうぶをもつから、「す



▲みんな友だち

「何のために、しごとをしていますか。」と聞いたら、家ごとくや生活のためだそうです。お父さんは、しごとがいっぱいあるから、かぞくであんまりあそびません。ほとんどの日曜日、お母さんと妹とあそびます。でも、ときどきはお父さんとあそびます。いつも家をつくるのがおとうから帰って来るのもおとうです。おとうもいっしよに食べないときが多いです。
わたしがインタビューを思ったことは、お父さんはわたしのためにしごとをがんばっているからすごいと思います。

きくよう文芸

菊陽句会報

逆上がり親の喚声夏果つる	坂本百合子	その時に当てし西瓜の真二つ	佐藤 節
白粉花や猫も眠たし路地の風	田中 郁子	真つ直ぐに生き来し兄の梅雨の葬	吉野 早苗
折鶴の風に膨らむ原爆忌	村田 正三	家人にも好き嫌ひあり茗茄の子	川口 豊子
神垣の斜面ならか水引草	井 子文	蛹化せる秋蝶の日々夢見つつ	井上久美子
拝礼の少女のうなじ夏帽子	財津 早雪	かたくなに生きる身仕度草刈女	日高 妙子
綿菓子を頬ばる母と夏祭り	原野レイ子	登りつめ行方惑ひに吊るブーヤ	曾我 育代
のびのびと過ごすも良しと夏休	西村ひとえ	唐黍の簾落りや峽の宿	曾我トモ子
夏空やにぎはひ遠く船着場	カ 幸子	秋の蚊やこの瘦身を吸はずとも	紫藤 祥子
絵手紙に託しそよ風送りたる	寺尾千代子	深山里神話息衝く秋気かな	村上 朋子
土俵入りの赤子泣き出す盛夏かな	高橋 孝子	米寿にもなほ残る夢更衣	野口 令文
夏休み網と虫籠孫を待つ	堀田 妙子	ラムネのむ男ひとりの框かな	松橋 強
五百ばつ花火あがるぞ菊陽町	佐藤 健	無防備の弥陀の背恋し仔蟻螂	佐藤 澄世
喚声の中で打揚花火咲く	佐藤 航	遠き日の事も寝莫産の夢は今	三島 一路
選挙車に届く声援蟬の声	佐藤 颯		

短歌会

夏雲に向かつて咲きし向日葵は過ぎ来し日々の命に似たり
上りゆく道辺に赤き山百合の花の一群れ高き野に咲く
藍青き山に連なり有明けの雨過ぎし後に海は穏やか
木洩れ日は滝壺深く差し入りて波立つ水面はきらきら光る
アドバルン空に上がるを樂しめり吾れ百二歳で買う物もなく
枕辺の色とりどりの花々に蕾の一輪今朝開きたり

今村 貞子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
皆嶋キクノ
森 敦子